

武田信玄 公 生誕五百年祭 大法要

開催日時 令和 三年 十一月 三日(祝) 午前 十時
施 主 甲府商工会議所 会頭 進藤 中
催行寺院 定額山 浄智院 善光寺 (甲府市)
来賓寺院 信玄公に所縁のある主に甲府所在の各宗派寺院

式次第

- ・導師 並びに 来賓寺院 入堂
- ・施主挨拶 甲府商工会議所 会頭 進藤 中
- ・来賓紹介
- ・来賓祝辞 山梨県知事 長崎幸太郎 様
甲府市長 樋口雄一 様
- ・法要差定
- ・本尊御開帳
- ・表白(善光寺 住職 藤井明雄 様)
- ・偈文(能成寺 住職 樋口顕龍 様)
- ・焼香(読経)
- ・閉式
- ・記念撮影 金堂(法要会場)の正面階段

司会進行 本事業検討委員会 企画委員長 雨宮正英(副会頭)

戦国武将と仏教

武士は乱世において、本来的には生死という心の動揺を鎮める拠り所、勝利の武運を願い求める対象として仏教を信仰したと思われませんが、一方で、領民の人心掌握、教団組織の利用や諜報、仏教権威の政治利用、教団組織の強大化への警戒など、領国経営の重要な手法と捉えていた面も持っていたと考えられます。また、領主として先進的な学問を身に着ける学びの場としての役割もあり、多くの宗派を取り込み庇護・下護する必要があったと思われます。甲斐の国に於いても、所領を統一して府中を移した武田家第十五代・信虎公と武田家第十六代・信玄公の時代には、仏教を積極的に取り入れ、寺院の創建・再建・移転を城下の整備の中で意図的に行った様子が見えます。

武士たちは、天台・真言という旧来宗派への崇敬はもちろんのこと、特に自身の努力や鍛錬で悟りに達すると教える禅宗を好み、信玄公も臨済宗を信仰し仏門に入り、府中五山を制定しました。

また、一向宗との関係も重要ですが、浄土真宗の宗主・顕如の妻は三条夫人の妹であり、同宗僧侶が信玄公と三条夫人との婚姻を取り持ったと伝わるなど関係が深かったと想像されます。

[江戸時代の寺請制度(所属宗派が一つ)以前は、多宗派への崇拝も特別なことではなかったのか]

尚、本事業の来賓寺院は、主に甲府市内所在の寺院に宗派を超えてご協力いただきました。

甲府五山（こうふござん）

信玄公は、仏法信仰を重んじ臨済宗に帰依し、京五山、鎌倉五山にならい、甲斐の古刹を城下に移しました。そして何れも妙心寺派に改め、それぞれに土地を寄進し、これらの寺を「御城附御祈願所五山」と号しました。現在は別名「甲府五山」と称し、円光院、長禅寺、東光寺、能成寺、法泉寺の各寺は、いずれも武田家親族の菩提寺となっています。

大法要 催行寺院

浄土宗

定額山 浄智院 善光寺 (ぜんこうじ)

所在地 甲府市善光寺



甲斐善光寺は、開基・信玄公が川中島の合戦の折、信濃善光寺の消失を恐れ、永禄元年(1558)、御本尊の善光寺如来をはじめ諸仏寺宝類を奉遷したことに始まります。

武田滅亡後、慶長三年(1598)善光寺如来像は信濃に帰

座したため、甲府では前立仏を御本尊と定め現在に至ります。江戸時代には浄土宗の甲州触頭を務め、徳川家位牌所となりました。創建当時の伽藍は焼失しましたが、現存の金堂・山門は寛政八年(1796)に再建されたもので重要文化財に指定されています。

偈文奉読 来賓寺院

臨済宗 妙心寺派

定林山 能成寺 (のうじょうじ)

[甲府五山の一つ]

所在地 甲府市東光寺町



能成寺は、貞和年間(1345-1350)に武田家第十二代・信守公が開基となり、業海本浄禅師を開山として八代郷(甲府市の南東 現在の笛吹市八代町)に創建され、信玄公の時代に甲斐府中に移転、さらに文禄年間に愛宕山東麓の現在地に移転しました。また、二度の伽藍焼失を乗り越えて現在地に復興整備されています。

寺宝として「信玄公制札」や「加藤光泰禁制」などの中近世の文書(能成寺文書)が残されています。

来賓寺院 (寺院名での五十音順)

時宗

稲久山 一蓮寺 (いちれんじ)

所在地 甲府市太田町



甲斐の名門一条家を継いだ一条宗信公は時宗教団に入り、正和元年(1312)兄の時信公を開基・自身が開山となり居館(現在の甲府城址)に一蓮寺を創建しました。その後、豊臣勢による甲府城築城のため

現在地(太田町)に遷寺。甲斐の時宗拠点寺院として多くの末寺を抱え隆盛を得ました。明治初期には山梨県議会の議場となり、境内地の一部が県に移管されて公園や動物園として整備され、県民の憩いの場となっています。

臨済宗 妙心寺派

瑞巖山 円光院 (えんこういん)

[甲府五山の一つ]

所在地 甲府市岩窪町



円光院は信玄公の先祖・逸見太郎清光公の創建で、清光院と号し現在の笛吹市石和町にありました。後に武田家第十二代・信守公が父・信重公の牌寺として成就院と改め、さらに永禄三年(1560)信玄公が京都より説三

和尚を迎えて開山とし、現在地に移しました。現寺号の起こりは、信玄公正室・三条夫人(左大臣三条公頼の次女)が元亀元年に逝去し、円光院に葬送された時の法名から、「瑞巖山 円光護持禅院」と改称されました。

日蓮宗

身延山 妙法華院 久遠寺 (くおんじ)

所在地 身延町身延



日蓮聖人は甲斐国波木井郷を治める南部実長（さねなが）公の招きで、文永十一年(1274)身延山に入り、以来9年にわたり法華經の読誦と門弟たちの教導に終始、弘安四年(1281)には本格的な堂宇を建築し、自ら

「身延山 妙法華院 久遠寺」と命名されました。聖人のご遺骨もご遺言により身延に祀られています。その後、武田氏や徳川家、皇室の庇護を受け、法灯は七百有余年にわたり守られ、日蓮宗総本山として崇敬を集めます。

臨濟宗 妙心寺派

万松山 積翠寺 (せきすいじ)

所在地 甲府市上積翠寺町



積翠寺は、躑躅ヶ崎館(武田神社)の北北東・甲府盆地北縁、詰城としての要害山城の麓に位置し、行基の開山と伝えられますが、「甲斐国社記・寺記」では南北朝時代に夢窓疎石の高弟竺峰が中興開山したとされています。

永正十八年(1521)十一月三日、信玄公は要害山城に避難する際に、積翠寺内で生まれたと伝えられており、境内には今も産湯を汲んだ井戸が残り産湯天神として祀られる所縁の深い寺院です。戦国期には、武田氏が催す和歌や連歌会が行われ、句会の記録も伝来します。

曹洞宗

萬年山 大泉寺 (だいせんじ)

所在地 甲府市古府中町



大泉寺は、大永元年(1521)信虎公を開基として
建立され、第一祖は天桂禅長禅師を招き開創された曹
洞宗のお寺です。二世の吸江英心大和尚は信虎公の
弟であり、武田家の菩提寺として、信虎公、信玄公、

勝頼公の御霊殿が本堂奥に祀られています。武田氏滅亡後も甲府城を築いた浅野家の菩提寺となり、
後の城主、柳沢吉保公・吉里公の帰依も厚かったと言われます。壮大な堂宇も甲府空襲により焼失、
その後再建され現在に至ります。

臨済宗 妙心寺派

法蓋山 東光寺 (とうこうじ)

[甲府五山の一つ]

所在地 甲府市東光寺町



鎌倉時代の弘長二年(1262)渡来僧の蘭溪道隆が
再興した寺院で、この時寺号も東光寺と改められた。
戦国時代には信玄公の庇護を受けて隆盛を得る。一方
で諏訪領主の諏訪頼重公や信玄公嫡男・義信公の幽閉

の寺となり、二人の墓所も現存する。武田家滅亡時と近代になってからも甲府空襲で諸堂・文書
類は焼失しているが、仏殿(薬師堂)は中世の建築様式を残した入母屋造檜皮葺屋根の建物として、
国の重要文化財に指定されている。

臨濟宗 妙心寺派

金剛福聚山 法泉寺 (ほうせんじ)

[甲府五山の一つ]

所在地 甲府市和田町



元徳二年(1330)武田家第七代・信武公が、夢窓国師の高弟である月舟禅師を招いて創建。それから二百年あまり後、信玄公は武田家中興の祖といわれた信武公が開いたこの寺の伝統を守るため大修理を施し、寺領を寄

進した上、甲府五山の一つに列しました。天正十年(1582)に武田家は滅亡しますが、勝頼公の首は京都六条河原にさらし首となったものを、当山の快岳禅師が妙心寺の力を借りてもらい受け、法泉寺に持ち帰り手厚く葬りました。

真言宗 智山派

清水山 満蔵院 (まんぞういん)

所在地 甲府市武田



信虎公は霊夢を感じ、大永二年(1522)堂宇を建て清水寺(せいすいじ)を創建します。その後、永禄十一年(1568)信玄公が居館(躑躅ヶ崎)に毘沙門堂を造営、自らここで修業し真言僧や天台僧の論議を聴聞したと伝

えられます。天正十三年(1585)この毘沙門堂を清水寺に移し正覚院と称し、二ヶ寺を合わせ萬蔵院としました。戦勝を祈る寺に名を連ねます。後に甲府城築城や大火で諸堂を失い、文化五年(1808)に本堂を再建し現在に至ります。

天台宗との関係

武田家は先祖代々天台宗を信仰しており、祖先は天台宗寺門派の拠点・園城寺との縁が深かったとされ、その後、甲斐に入った源氏の拠点にも巨大な天台宗寺院・平塩寺が存在したとされ跡地が残っています。信玄公にとっても歴代が信仰する特別な宗派であったと思われ、さらに、自ら同宗のもう一つの大派閥・延暦寺(天台宗山門派)の密教も学んで山門・寺門共に良好な関係を保ったことがわかります。

これは信仰心に加え、上洛計画を睨んだ政治的な側面もあったと考えられます。元亀二年の織田信長の比叡山焼き討ちでは、甲斐に逃れた僧侶を保護し、延暦寺を甲斐に再建しようとした話も残っていますし、また同時期に信玄公は天台座主・覚恕法親王から権大僧正位に任ぜられたと言われています。そして、織田信長の仏教に対する悪行を非難し「天台座主沙門 信玄」の肩書で西上進軍の決意書状を出したとされ、実際の行動に移しましたが進軍途中で病没してしまいました。

その後、甲斐における天台宗は長い時間の中で勢力を落とし、現在、甲府盆地には天台宗住職は皆無となり、信玄公と天台宗の繋がりを所縁の寺院から手繰ることは難しくなっていました。

全文の 参考・引用文献

- ・「武田信虎公と信仰」清雲俊元著(山梨県宗教者懇話会「じべた」42号)
- ・「信仰を通して見た武田信玄・上杉謙信の比較研究」山口祐哉著(駒沢史学1961・1)
- ・善光寺 HP、一蓮寺 HP、円光院 HP、久遠寺 HP、法泉寺 HP に掲載の各寺院由緒書き
- ・大泉寺パンフレット、入明寺パンフレット掲載の各寺院由緒書き
- ・「甲斐百八霊場」(山梨新報社制作)の各寺院紹介
- ・「甲府観光ナビ」(甲府市観光協会 HP)の各寺院紹介